

人材を人財に

梅雨空で何ヶ月ぶりに街を歩いて、感じることはありません。街並みは依然とにも変わっていませんが、明らかに変わっています。歩く人が、時間の経過や季節で変わったのか自分が変わったのか、どうも以前となじめない自分がある。どこから来るのかはつきり

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2011年6月27日 (月) NO. 204

地域から明るい未来を作ろう

と解らない。何故か、ふとした違和感を感じる時があります。会社に訪問しても、何かが変わったと感じる時があります。空気が言いますか一瞬の感じですか。大概、改善の兆しや発展途上の会社の場合が多いのです。

何処か基本的なことがしつかり根付いて来ているのでしよう。たとえば挨拶とか何か、社員の気持ち変わったのでしょうか。全員で考え全員で実行する。知恵を絞り工夫する「全員経営」の結果なのでしようか。

日本は、ビジョンと構想の集団ゲームに「負けたのです」経済敗戦をしたのです。まさに無条件降伏なのです。

儲からない、売上げが伸びないのは社員が悪い、景気が悪い、政治が悪いの不平不満の八つ当たりでは、

何も解決しない。どこかが間違っているやり方です。自分のやり方を疑い、将来を希望の持てるもつといい方法はなにかと、常に自己否定する勇気です。すべての計画自体が机上の空論ですから、予想と違

うのが当然です。挫折と失敗を繰り返すことによってのみ成功がもたらせるものでしょう。

考えて考え抜いて真剣に考え抜く努力をし、上に行く。失敗する予兆は現場の中に必ずある。

誰も何もしてくれない。何をどのようにすればいいものだけが生き残る「人財」です。



情けの報

情報は情けの報と書く、情けの報から、「知恵」を生み出すのが人間の仕事である。「知恵」は機械ではなく人間でしか生み出せない。情報から知恵が生まれる。

最近数百キロ彼方の友人を即、吸い寄せ友が亡くなつた。本人に確認していないが、自由奔放に人生を全うしたように思う。生きている者にそれぞれ思い出とメッセージを残し、逝つた。

何故かときめくと元気で明るくなりませんか。どうしてでしょう。期待や喜びで、胸がドキドキする、からだ全体に血液の循環が、一気に良くなる感じですか。

しかし、今の時代、悲しいほどにときめくことは殆どありません。我が国は「大東亜戦争」末期の右肩下がりの時代を迎えているようです。諦めず、希望の先を見つけ堪え忍ぶ、忍の時代でしょうか。お上に頼るほど、お上は幻。他力依存は衰退へ一直線です。

ちきりく日々を

私たちは、組織やチームの中こから、自分で高くポールを立てその先から俯瞰(ふかん)し、希望を見つけるしかないのでは。

このため、チームのコミュニケー

まず問題の発見が第一、そして計画の立案、情報の発信と実行力、創造力が試されます。

小さな目標を決め、確実に次々の積み上げを繰り返す。諦めない愚直な行動しかないと思う。

